

大樹 成層圏プラットフォーム報告会

大型スクリーンで試験内容を説明する
実験隊メンバー



【大樹】昨年、町内で行われた「成層圏プラットフォーム」計画の実験結果を報告する「定点滞空飛行試験報告会」が、1日午後1時半から町生涯学習センターで開かれた。町民ら122人が参加し、無人飛行船を滞空させての通信放送や地球観測など各種実験内容について興味深く聞き入った。(松村智裕)

「運用や通信の実験成功」

再生燃料電池試験も検討

独立行政法人の宇宙航空研究開発機構(JAXA)、情報通信研究機構(NICT)が主体となつた同試験実験隊が主催の成層圏に無人飛行船ネットワークを構築する考えで、昨年5月から11月にかけて町多目的航空公園で実験が繰り返された。報告会では大型スクリーンを使って実験内容を説明。管制塔からの遠隔操縦や自律飛行によって、高度4kmでの飛行船の運用を確立したことが報告された。

また、通信放送の実験では、大容量の光通信や

ハイビジョンのデジタル放送に成功したとして、地球観測分野でも「3種類のセンサーで植生地表温度、移動する車の観測を無事行うことができた」と、実験が順調に進んだことを強調した。

最後に、清水亨JAXA航空利用技術開発センター長が「実験の成功は地域住民や役場などの協力のおかげ」と町のサポートを感謝。今後の実験については「再生燃料電池など電源系の実験を、今年夏に2カ月ほど大樹で行う方向で検討している」と述べた。